



■ 底面給水マット

I-特徴

最も高性能なマットは三層構造になっています(任意で+1)。

1- ビニール層(下層)

マットの地面(ベンチ)に接触する面です。水を通さず、ある程度の厚さのものを利用して次のような効果を得られます。

- 土壌や栽培資材に付着して生息している病気から**隔離**し、株の発病を**防ぎ**ます。特に、木材や砂利など小さな穴があって完全な殺菌が難しい場合に有効です。
- **地面の凹凸を均一にし**、鉢底に水が均一にいきわたり、水溜りが出来るのを防ぎます。コンクリートなど地面が舗装されていると均一性はとても高いです。

ポイント:

地面(またはベンチ)に軽い傾斜(1°)をつけると、かん水後の余分な水の排出性が高まります。傾斜は横方向で、縦方向にはしないでください。



2-吸水層(中層)

最高吸収力は1ℓ/m²は必要です。それ以上のものは良いかん水管理をもたらしません。良い根作りのために、かん水は短時間で頻繁に行うことが必要です。



3-透水層(上層)

吸水層に接着しています。マット全体を補強するため、巻いて収納するのも簡単です。

4-任意で: マイクロ孔のあるビニールシート

- かん水方法により、極小さな穴の開いたビニールシートを一枚(透水層の上に)追加されることをお勧めします。マットを長持ちさせます。また、吸水をよりゆっくとさせ、塩類の集積や藻の発生を抑えます。
- 黒色と白色のものがありますが、後者の方が光の跳ね返り効果でシクラメンの株をより丸くします。
- 使用済みのものは廃棄し、栽培には常に新しいものを使用してください。
- **注意: ビニール上からのかん水は避けて下さい。**



II-かん水

1-かん水方法

2種のかん水方法に適しています:

- 地面(ベンチ面)まで届くチューブが付いている**灌水器**は、株を濡らすことなくかん水できます(A)。この場合、株と株の間をチューブが通過できるだけのスペースを充分に取ってください(B)。

このかん水方法では、マイクロ孔ビニールシートの利用は適していません。

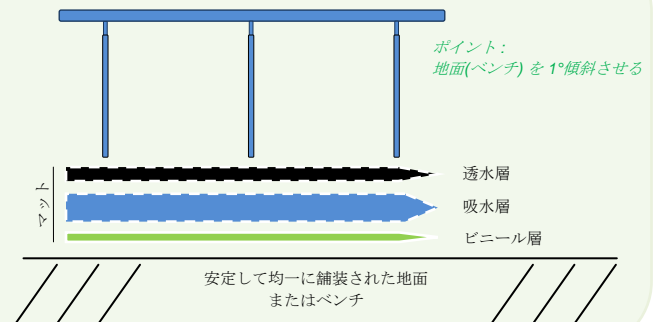
A



B



チューブが付きた灌水器

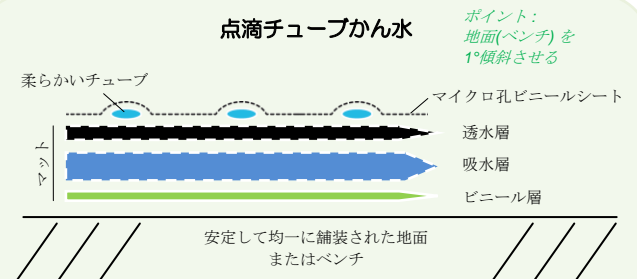


- **点滴チューブかん水**(点滴穴は20~30cm間隔)をマット上に1m~1.5m間隔で配置します。

マイクロ孔ビニールシートを使用する場合は、チューブは柔らかいものを用い、ビニールシートの下に置きます。



点滴チューブかん水



マットの**最高吸水力は1ℓ/m²**です。
かん水の時間は**短く**してください。



■底面給水マット

2-かん水管理

- かん水後、吸水性の資材は数時間で乾きます(夏場は乾燥時間が早まります)。
- **かん水のタイミングはいつですか？**
 - ★ チェックポイントは鉢であって、マットではありません。
 - ★ 鉢土の湿状態は根鉢の $\frac{1}{2}$ もしくは $\frac{1}{3}$ であること。完全に乾かすとピートが凝縮してしまい、マットに接触できなくなりますので避けて下さい。
 - ★ ボトリチス予防のため、塊茎周辺の土は乾いた状態を保ちます。
- 鉢から吸収されていない余分な水は温室内に蒸発し、鉢周りの気温を若干下げます。
- かん水管理が上手く行われないと、衛生上のリスクを高めます。



ボトリチス



ボトリチス

III-Q&A

1-すぐにマット上で栽培してもいいですか？

いいえ。根鉢形成期を過ぎてから、鉢をマットに置くようにしてください。この期間中は頭上かん水をお勧めしています：

- 前ページ(A)のような自動灌水器を利用される場合でも、チューブではなく噴霧器ノズルを使用します。
- または手かん水します。

根鉢形成期は鉢上げから 4~5 週間です。この期間中に鉢とマットが接触すると土が過湿状態になってしまいます(頭上かん水 + 鉢底からの水の吸い上げ)。この場合、根は正しく発達しません。

水はけを良くすることと、マットから鉢を離して根詰まりを防ぐことは基本です。

ポイント: 大きな排水口がある鉢トレーに鉢(株)を置き、そのトレーごと逆さにした別のトレーの上に置きます。



逆さにしたトレーの上に、株が入ったトレーを置く

大きな排水口のある鉢トレー

2-適する鉢および用土

底面給水システム用と同じタイプの鉢(エブ&フローなど欧州方式の底面給水法)および用土なら適します。底面給水マットに対応する構造の鉢がたくさん製造されています(栽培情報『鉢上げ』を参照してください)。



3-鉢サイズは？

どのサイズの鉢でも利用できますが、もちろんサイズに適した栽培管理は必要です。

17~19 cm の鉢では、特に暑い時期には、吸収層が薄すぎると、本来必要とされる水分量とかん水頻度が不十分になる可能性があります。その場合、根詰まりや株の萎えなど、正しい根の生育が出来なくなるリスクがあります。



4-マットの手入れは？

マイクロ孔のあるビニールシートを使うとマットの寿命が延び、数年間繰り返し使えます。しかし、衛生上のリスクを避けるために毎回の使用ごとにきちんと殺菌消毒してください。マットが厚すぎなければ殺菌消毒も簡単です。

残留物をしっかり落とす薬品も市販されています(安息香酸や過酢酸など)。栽培に使用した肥料や成長調整剤などによる塩類の集積を取り除くため、毎年、純水でしっかりと洗い流してください。

一方、ビニールシートは破棄します。